

平成30年11月定例教育委員会会議録

平成30年塩尻市教育委員会11月定例教育委員会が、平成30年11月27日、午後1時30分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 12月の行事予定について
報告第3号 後援・共催について
報告第4号 平成30年塩尻市議会11月臨時会報告

4 その他

- その他第1号 平成30年度教育委員会関係補正予算（案）〈期間限定非公開〉

5 閉 会

○ 出席委員

教育長	山 田 富 康	教育長職務代理者	小 澤 嘉 和
委員	林 貞 子	委員	嶋 崎 栄 子
委員	石 井 勉		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長 (新体育館建設プロジェクトリーダー)	中 野 昭 彦	市民交流センター・ 生涯学習部長	中 野 実 佐 雄
こども教育部次長 (家庭支援課長)	百 瀬 公 章	市民交流センター・ 生涯学習部次長 (社会教育課長)	胡 桃 慶 三
教育総務課長	太 田 文 和	平出博物館長	小 松 学
こども課長	青 木 正 典	スポーツ推進課長 (新体育館建設プロジェクトサブリーダー)	田 下 高 秋
子育て支援センター所長	羽 多 野 紀 子	男女共同参画・若者サポート課長	嶋 崎 豊

主任学校教育指導員

黒澤増博

交流支援課長

山崎浩明

図書館長

上條史生

○ 事務局出席者

教育企画係長

横山朝征

1 開会

山田教育長 それでは、皆さん、こんにちは。ただいまから11月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

きょうは、真っ青な空に暖かい日差しが差し込んでおりまして、小春日和のわけですけれども、11月も末となりまして、ことしも師走の音がすぐそこまで聞かれる季節となってきました。今年度の事業もいよいよ終盤に入り、まとめと評価の時期に差しかかっております。

さて、先週21日に、両小野中学校教諭が酒気帯び運転によって長野県教委員会より免職の処分を受けました。組合立両小野中学校を管轄する塩尻市教育委員会におきましても、教育への信頼を著しく失墜させたこととなり、この場をお借りして、改めて生徒、保護者、また全ての市民の皆様に深くおわびを申し上げます。教育委員会といたしましては、この事実を重く受けとめ、教職員の非違行為が二度と起こらぬよう、信頼回復の取り組みを進めていかなければなりません。教育委員会として指導していくことは当然でありますけれども、学校においても認識を共有し、自律的な研修や取り組みをさらに進めるよう働きかけてまいりたいと思います。なお、この件につきましては、この後の総合教育会議の議題にもさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

2 前回会議録の承認

山田教育長 それでは、次第に従いまして先に進めさせていただきます。2番、前回会議録の承認について事務局からお願いいたします。

横山教育企画係長 前回、10月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますのでお願いいたします。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 それでは、そのようにお願いいたします。

3 教育長報告

山田教育長 続いて3番、教育長報告に移ります。本日は、先週末の23日、勤労感謝の日の1日の行事を通して、その様子や感想について報告したいと思います。23日の勤労感謝の日は私にとっては実に中身の濃い1日でありました。順を追って、スポーツ少年団の表彰式、地域の子供の科学体験教室、両小野中学校のアントレプレナー学習の発表会、映画「ウスケボーイズ」の鑑賞、この順に報告をさせていただきます。

まず、朝にはスポーツ少年団の表彰式がありました。スポーツ少年団は御存じのとおり日本最大の青少年のスポーツ団体であります。団員約70万人、指導者約20万人を擁していると言われております。そして理念には、1人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供す

ること、そしてスポーツを通して青少年の心と体を育てること、またスポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献することを掲げております。今回の表彰では小学6年生や中学3年生など、主に進学のため少年団を退く92名に優秀団員賞が贈られました。あわせて優秀指導者賞や優良スポーツ少年団賞、優良育成母集団賞、長く貢献している指導者への荣誉賞や有功賞などが贈られたところであります。

本市では、スポーツ推進計画の中で、子供のスポーツ機会の充実を掲げ、子供が地域でスポーツに親しめる環境の整備を施策に上げております。スポーツ少年団が、子供たちが自由時間に地域社会で幅広いスポーツ活動をグループで行う集団であること考えると、少子化の傾向やネットに触れる時間の増大が続き地域での外遊びなどによる集団活動が少なくなる傾向の今、スポーツ少年団の存在意義は決して小さくはなっていないと私は考えました。こうした地域のスポーツ活動が少年スポーツクラブというだけではなくて、児童館での活動やコミュニティ・スクールの活動と連携、リンクされて、学校以外のあらゆるところでスポーツ機会の拡大に結びつけられないか検討してみることもできるのではないかと思ったところであります。

2つ目は、地域の子供の科学体験講座です。私の住む地域の支部のPTA会長さんから夏ごろ、「子供たちのものづくりなどの体験型の講座を開きたいと思っているんですけど、山田さん、紹介していただける講師いませんか」というように相談を持ちかけられました。そのときに頭に浮かんだのは、サイエンスキャンプなどを実施している教育支援協会長野でありましたので、そこを紹介いたしました。交渉の末、講座の実施が決まったようであります。その科学体験講座が同日の午前中に開かれましたので様子を見させてもらいました。

私の住んでいる地域の支部は小さな支部で、主体は低中学年の子供たちで高学年が非常に少ないというそういう支部ですけれども、私が顔を出したときには、子供も保護者も本当に喜々としてスライムづくりをしていました。小さな子供たちにスライムのできる仕組みはわからないとは思いますが、洗濯のりに水を加えてそこに色水を加えて色をつけて、ホウ砂水を加えながら割り箸でぐちゃぐちゃっとこねていると、不思議や不思議、次第に固まってぷにゅぷにゅのスライムができ上がります。子供たちはさまざまな色のスライムをつくり、それを取り出してボール状にして投げて遊んだり、肌にくっつけて感触を確かめたり、中にはふにょんと長く伸ばしてそれを巻き取って「バターロールができた、できた」とか言って喜んでいる、そんな子供もありました。そうした性質を生かした遊びにも発展しておりました。でき上がったスライムを幾つもビニール袋に入れて、「これをうちに持ち帰るんだ」と言って喜んでいる姿が印象的でした。

後半は宝探し体験ということで、黄鉄鉱の小さなさいころのような結晶を見つけ出すという、黄鉄鉱の結晶が入った天然の泥を少しずつもらいながらそれを水で洗い流していくと、中から小さいものは2ミリくらいですかね、二、三ミリくらい、大きいものでも五、六ミリくらいのさいころ型の黄鉄鉱の結晶が出てまいりました。子供たちも保護者も夢中になって泥の中に手を入れて洗い流して、見つけると「おおすごい、きれい光ってる」とか、「ほら、こんな大きいのがあったよ」などと声が上がっておりました。

どちらの体験も子供も保護者も初めての体験であり、心に残るものだったと思います。学校とは離れたところで、こうした異年齢での体験や遊びの機会が地域にあることは本当に大切なことであるんだなあというように思いました。今回は支部PTAの取り組みでしたけれ

ども、これもコミュニティ・スクールとのつながりの中で計画的にまた継続的に行われるようになり、そこに地域の方々も加わっていくということになると、地域の教育力そのものが向上していくよい機会であるなあと、そのように思ったところであります。

長くなって済みません。次は両小野中学校のアントレプレナー学習の発表会ですけれども、この発表会は、ふるさと、たのめの里をともに愛する生徒の育成を目指したアントレプレナー学習の保護者や地域の方々に対する発表でありました。発表は、地域PRキャラクターグループ、空き家活用地域美化グループ、地域行事グループ、地域食材グループ、霧訪山ど真ん中グループの各グループが発表し、保護者や地域の方々と質疑協議を行うというものでした。

生徒の発表については、これまで学んだことの中核的な部分をよくまとめ、成果や課題についても触れておりました。ただ、総合的な学習の時間の成果の発表としては、自分たちが捉えた課題が何であり、その課題解決に当たって、地域の人やもの、こととどうかかわり、どう取り組んで学び、その結果としてどのような成果に結びつけられたのか、さらにどのような課題が残って、それについて深く追及するために、今後何が必要かなどについて自分たちの考え方や、また、生き方と結びつけながら発表をしたり、そこに鋭角的に切り込んでいく質疑を展開したりして学びをさらに深めてほしいなあと、そのように思いました。中学生にはそうした力が備わっているのではないかと信じたいところであります。

もう一つですけれども、少人数の中で学ぶ子供たちです。小さな学校でありますので、肉声であっても場にふさわしい声の響きを持って発表する力をぜひ身につけさせたいなあと思いました。また、委員の皆様方もそれぞれ各学校で学習発表会等の機会に顔を出すことがあると思いますので、その情報、状況を交換しながら共有できればなあと思います。

最後、「ウスケボーイズ」の映画です。本市のブランドでもあるワインにかかわる映画で、信州塩尻とも関係の深い映画でありました。そんなこともあって、庁内グループメールの中では副市長さんから、本市の魅力発信のために職員はぜひ鑑賞するようにという、そんな勧めがありました。私は最終日の最終回の鑑賞をさせていただきましたけど、この映画は、現代日本のワインの父と言われ、桔梗ヶ原において1970年ころから欧州系のメルロー種を栽培し、1985年には国際ワインコンクールにおいてグランドゴールドメダル賞を受賞し、日本ワインの可能性を広く国内外に知らしめた麻井宇介の薫陶を受け、彼に鼓舞されながらワインづくりに没頭してきた若者たちの姿を描き出した映画でありました。そのモデルには、本市のKidōワイナリーの城戸亜紀人さんも入っております。また、塩尻市でもロケが行われたということでもあります。この映画を通して、私は確かにブランドとしての塩尻ワインのことも考えましたけれども、それ以上に、麻井宇介とワイン醸造に情熱をかける若者たちとのワインをめぐる深い深い人間関係や、ワインづくりの理想を掲げ、気候、土壌、人を風土として、その風土から生まれるつくりたいワインを、五感を働かせてつくりあげていくという若者たちの生きざまに共感するところが大でした。そうした意味で、この映画はキャリア教育としての格好の題材であると思いました。市内では各ワイナリーはもとより、恐らく市内には高い理想を掲げてそれぞれの道で励んでおられる方々が数多く存在しているのではないかと思います。そうした方々にも光を当てて、その生きざまに学ぶことができるキャリア教育がこの映画も含めて進められるとよいなというように思いました。濃い23日だったので、発表も長くなってしまって申しわけございませんでした。以上で私からの報告を

終わります。

それでは、委員の皆様方から御質問ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

○報告第1号 主な行事等報告について

山田教育長 それでは、続きまして報告第1号、主な行事等の報告についてお願いいたします。資料は1ページから7ページまでであります。事務局より主要な行事について説明をお願いいたします。

羽多野子育て支援センター所長 それでは、1ページの一番上の段をごらんください。10月14日に絵本作家accottoさんによるワークショップと絵本の読み聞かせを北部子育て支援センターで開催いたしました。平成31年の6月に「えんてらす」に移転いたします北部子育て支援センターのイベントといたしまして、新しいプレイルームの壁画を作成していただく絵本作家accottoさんをお招きをいたしまして、絵本の読み聞かせと塗り絵の絵本バッグを制作するワークショップを開催いたしました。絵本作家御自身による読み聞かせや絵本バッグの塗り絵のアドバイスを受けながら、親子での制作を通して、親子のつながりを深めたり、絵本への親しみを増すことができましたとともに、新しくなります支援センターのPRができました。来年の3月には、壁画を作成する様子を親子で見学をするツアーも予定をしております。当日の参加は58組139人で、多数の御参加をいただきました。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

青木こども課長 次にその下になります。こども課の事業になりますが、10月20日土曜日に親子でイクジー・えんぱ一保育園を市民交流センターで開催いたしました。えんぱ一保育園は、未就学児と保護者を対象に、いろいろな遊びの紹介と体験をしていただきながら、親子の触れ合いを育んでいただくもので、平成27年度に第1回を開催し、今年度で6回目となります。昨年同様、松本短期大学の幼児保育学科に御協力をいただきながら、8つの遊びと体験のコーナーを設置するとともに、子育てネットワーク推進懇談会によります実りの秋コンサートや、次のページ、2ページ、一番上段にも記載がございますけれども、地域における子ども会活動等のリーダーを育成するジュニア・リーダー養成事業の第4回の研修会を兼ねつつ、小学5、6年生の研修生による企画、制作、参加によるコーナーも設置いたしました。効果としましては、親子で過ごす楽しい時間を共有していただくとともに、保育士を目指す学生の実体験の場、また、ジュニア・リーダーの研修生にとりましても、その成果を披露しつつ、小さい子供たちと触れ合う、そして学び合うよい機会となりました。当日は親子約200組、500人の方に御来場いただきました。親子でイクジー・えんぱ一保育園については以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。

胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長） 続きまして、3ページ中段でございます。10月21日日曜日、全国短歌フォーラムin塩尻、伊藤一彦氏の特別講演会を塩尻短歌館において実施したものでございます。今年は若山牧水没後90年、喜志子没後50年の節目に当たりまして、若山牧水の研究者であり、また「牧水研究会」の会長であられます若山牧水記念文学館長を務めます伊藤一彦氏をお招きして特別講演会を実施したものでございます。参加をいただいた方70名は定員いっぱいでもございまして、牧水研究者という

こともあり、牧水・喜志子を中心に普段聞けないお話や、近代短歌の流れについて御講演をいただき、参加者の皆様には楽しみながら短歌の魅力を感じていただけたというように感じてございます。私からは以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

上條図書館長 図書館から幾つか御報告をさせていただきます。4ページ中段、信州しおじり本の寺子屋講演会地域文化サロン「世界から見たしおじりワイン」では、講師に石井もと子さんをお招きしました。石井さんは、塩尻を初め日本各地のワイン、そして世界のワイン事情を熟知されたワインの専門家でございます。世界の中で塩尻市、桔梗ヶ原ワインがどのような位置にあるかというようなどころから、現在やや知名度が下がってきているというような評価、そして、これをどのような方向で打開していくかといったお話をしてくださいました。昨年度から開催されています地域文化サロン、地域の文化に光を当てるという企画の今年度の1回目でございます。市内外のワイナリーの関係者の皆様、そして市民の皆様、多く参加をいただきまして、ワインに関する知識を楽しく学ぶことができました。記載はしてございませんけれども、これを御縁にしまして、実は石井さんが塩尻市立図書館のワインコーナーの充実ぶりをとても評価していただきまして、その結果、冒頭、教育長から話がありました麻井宇介さんから石井さんが引き継いでいたワインに関する蔵書、これを塩尻市立図書館に一括御寄贈くださいました。現在、整理、装備などを進めておりまして、準備が整い次第ワインコーナーに配架したいと考えております。

続きまして、6ページ上段です。信州しおじり子ども本の寺子屋の主要な事業として実施しております「目指せ！図書館マスター」です。11月3日に行われました読書週間スペシャルデーにあわせまして、受講生たちによるお話会を実施いたしました。その前の回までにプログラムの立案、練習などを重ねてきた受講生が、親子連れの多くの参加者の前でその成果を披露したというものでございます。

続きまして、7ページ下段です。学校巡回ものがたりライブ、杉山亮氏を招いてのもので、これはことし新規事業といたしまして、信州しおじり本の寺子屋の楽しさを市内の小学生全員に味わっていただきたいということで、第1回目として宗賀小学校の児童を対象に開始しました。児童書作家であり、ストーリーテラーと書いてありますけれども、ストーリーテリングというのは、いわゆる素話でございます。物語を体一つで語り聞かせるというものでございまして、昔話のパロディですとか創作話などを披露していただきました。子供たちの表情を見ながら、学年に応じて題材をその場で決めてお話をしてくださるという形で行っておりますけれども、子供たちはとても楽しく物語の世界を味わうことができました。これに引き続きまして、きょうから片丘小学校、あした木曾檜川小学校、あさって広丘小学校ということで、3日連続で各学校を訪れて開催します。この4校を今年度実施しまして、引き続き来年度以降全ての小学校、また、できれば中学校でも引き続き開催をしていきたいと考えております。

行事報告につきましては以上ですけれども、あわせて報告をさせていただきます。本日お配りした資料をごらんください。平成30年度地方創生レファレンス大賞奨励賞の受賞についてでございます。図書館総合展という全国規模のイベントが毎年パシフィコ横浜において開催されております。その中で10月30日に開催されました地方創生レファレンス大賞におきまして、奨励賞を受賞いたしました。これにつきましては、昨年度地方創生レファレン

ス大賞の最終審査3館に塩尻市立図書館が残りまして、審査会特別賞を受賞いたしました。今年度も引き続き応募をいたしました。下の欄にありますように、信州の山の魅力を発信という事例を応募いたしました。最終審査3館には残れませんでした。これに続く奨励賞を受賞いたしました。県内図書館での受賞実績はまだ塩尻市立図書館のみです。これを2度受賞したのは鳥取県立図書館に続いて全国2番目ということでございます。図書館で行っておりますレファレンスサービス、調査相談業務でございますけれども、この強化と優良事例の広報を目的に行っているものでございまして、今回の受賞を励みにしまして、さらに塩尻市立図書館のサービスの充実に励んでまいりたいと考えているところでございます。以上、私からの報告とさせていただきます。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様から御質問、御意見ありましたらお願いします。また関連の感想等もありましたら一緒にお願いたします。

林委員 私も本の寺子屋の2つの地域文化サロンというものに参加しました。この地域文化サロンというのは、非常に身近に感じられる題材でとてもよかったですけれども、例えば「世界から見たしおじりワイン」の講師の石井さんという方は、先ほどの説明もあつたとおりに、世界のワインを見ていらっしゃる方なので、世界的な視野に立って塩尻のワインが今どうだというようなことを評価、アドバイス等をアカデミックにさせていただいて、本当に私自身も勉強になりました。

それとあと窪田さんの民話のお話のほうなんですけれども、窪田さんは吉田の2区在住の方で、身近な方なので、私もちょっと楽しみで参加しました。それで、吉田のところは長者原の民話のお話をさせていただいて、自分の住んでいるところにこんな、民話っていても、長者、昔にこういう方が住んでいたといういろいろな、歴史を物語っている地籍とかそういうものがあるということで、そういうふうなことで、地元を知るといってとても勉強になりました。

それとあと今説明なかったんですけど、とても楽しい企画で「ウォーリーを探せ！」という企画を図書館のほうでやっていただいたんですけど、私も子供が小さかったころはまった本なので、ちょっといい年して恥ずかしいんですけど、自分もウォーリーを探しに分館ですけれども行って探してきました。それで10個の文字をして、何をくださるのかなあとと思って楽しみにして本屋さんに行きましたら、こんなシールをいただきました。それで、やはりえんぱ一くの本館だけでやるのではなくてね、分館でやるって、8つの分館で同時に開催するってことがとても意味が深いことだったというふうに思いました。小さいお子さんがいて行かないという親御さんもいらっしゃる中で、分館というのは比較的身近なものですから、非常に参加しやすかったというふうに思いました。それで、さらに書いた紙を本屋さんを持って行ってプレゼントをいただくということで、また新たな、本屋さんに出かけるということで新しい本に出会うきっかけにもなったりして、とても楽しみない企画だったなあとというふうに感じました。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

石井委員 それでは、資料4ページ、真ん中の地域文化サロンについて私もお聞きしたいことがございます。資料の中に観光課とも連携した事業展開ができたという記載がございます。塩尻のワインというのは地場産業で非常に市内でも有力な産業でございまして、学ぶことから消費することに向かっていくことが不可欠であるかなあとと思います。おそらくは生産者側

も関係するお話だったかと思いますが、実際観光課、あるいはワイン業界とどのような連携を取ったのか教えていただきたいということ、これが1点でございます。

それからもう1点、別資料にていただきました地方創生レファレンス大賞の受賞というお話ですが、まことにめでとうございます。県内図書館での実績はまだ塩尻しかないということ、それから、昨年につき2度目の受賞ということで、1度目の受賞でこういうふうに変化できた、前に進んだということ、さらにそれが2度目の受賞にこういうふうにつながったという部分がありましたら教えていただきたいと思います。お願いいたします。

上條図書館長 1点目の観光課との連携でございます。計画段階ではワインの販売がそこでできないかというところを探ったのですけれども、残念ながらほかのイベントと日程がかぶったというようなことがありまして、ワインの販売はできませんでした。代わりに塩尻市内のワイナリーでつくったブドウジュースを当日の参加者にその場で味わっていただくということで、観光課に協力を得て試飲をしていただいたという内容でございます。

2点目です。昨年の地方創生レファレンス大賞では、ビジネス情報相談会、長野県よろず支援拠点との連携によりまして展開している相談会で、実際に起業に結びついた事例で審査会特別賞を受賞いたしました。今回の事例は、これとは全く別のものございまして、塩尻市立図書館ではビジネス支援の一環としまして3Dプリンターを置いております。これを平成27年に入れた当時は、全国の公共図書館で初めてということでした。以降、市内で活動していらっしゃる立体地形図の会の皆様が、山岳地帯の立体地形を3Dプリンターで出力していただいております、これを活用した展示をこれまでも図書館でしております。この図書館でしている展示に目をつけていただいて、松本市で行われる山岳フォーラムで展示をしたのが去年です。その展示をさらに見ていただいた環境省からお声がけをいただきまして、今年度は上高地インフォメーションセンターで出張展示を行ったということでございます。この山岳立体地形図に加えまして、図書館職員が山頂で撮影した映像などを使ってVRゴーグルで山頂からの眺めを360度体験できるといったものですか、そのほかさまざまな山に関する情報提供の工夫をしまして、図書館の展示でございますので、図書館で所蔵している山岳関係の資料、これもあわせて上高地で山に関する情報提供をしたというのが内容でございます。

委員の御質問で、昨年度の成果がどのように今年度につながったかということでございますけれども、塩尻市立図書館では3つの目標を掲げておりまして、その1つが進化する図書館でございます。これは、図書館サービスをどのような形で提供することが市民の皆さんの変化するニーズに対応できるのか、市民満足度の高い図書館サービスを提供し続けることができるのかということを考えまして、図書館から一歩踏み出してさまざまな社会で起こっていることに目を向けて、そこに発生しているニーズに図書館が適切な情報提供をする、そのためには図書館が変わり続けていかなければいけないことを目指しております。新規の事業をできるだけ多く生み出そうと、これは予算がなくてもできることが数多くあります。そんなことで図書館を運営してきている一つの形として、外に踏み出す図書館サービスの実践ということで行った事業が今回評価されたということでございます。このような変わり続ける図書館というのを今後も中心に掲げまして、さまざまな新しいサービスを生み出していきたいと考えているところでございます。

石井委員 ありがとうございます。

山田教育長 よろしいでしょうか。ほかの点でお願いします。

嶋崎委員 6ページのtent学校とはちょっと違う、学びの部分ですけれども、成果のほうで、災害について学び、停電、断水という状況下の中で、冷蔵庫の中の食材や備蓄のものを使ったメニューとか、調理体験というものがあるんですけど、これは実際に何かどこかでこういうものができましたっていうものが見られたりするのかどうか教えていただきたいです。

山崎交流支援課長 tentでは、さまざまな授業の一つとして、今回、災害時を想定した料理づくりをラインナップしました。食育室の電気が使えないという想定で、電気をつけずに薄暗い部屋の中で、しかも断水で、ペットボトルの水だけはあったということで、ペットボトル何本か用意しました。冷蔵庫にありそうな食材を用意して、それを使って、一体何ができるかということその場で調理体験しました。えんぱーくは火が使えないものですから、IH調理器をガスコンロに見立てて、調理を行いました。災害時、暗く、もしかしたら寒さもある中、こんなものしか冷蔵庫にはないんだけど、何とか今あるもので味つけすればそれなりのものはできるんだということを実践で試してみたといった授業となりました。以上です。

山田教育長 実際に食べたんですか。

山崎交流支援課長 実際に食べました。

山田教育長 味はどうでしたか。

山崎交流支援課長 まあまあ、おいしかったです。

山田教育長 ありがとうございます。

嶋崎委員 子供たちの反応はどうでしたか。

山崎交流支援課長 子供たちは大きな災害を実際に体験したことがないと思いますので、実際にこんなことがあるかもしれないという想定範囲内で、これが災害だったらどうするということを考え、ある程度認識しながら、臨んでいるという姿が見られました。

山田教育長 ありがとうございます。

小澤教育長職務代理者 お願いします。ここに盛られている行事について、関係させながらのコメントができれば一番いいんですけど、それができないので、この11月の行事から、学んだ点とか、感じた点をこれから述べてみたいと思います。

1つ目です。11月9日にレザンホールで小学校合同音楽会が開催されました。ここで感じたことを述べます。ことしの合同音楽会を聞く中、私自身、自分の心の中で、ある変化があるなとそんなことを感じました。それは、現役のころ、私は市の合同音楽会っていうのは、戦う場だと、コンテストだと、学校間の競争だと、こういうように捉えておりました。だから私自身も、あるいは担任も専科の教員も相当な圧力、プレッシャーを感じていたように思います。ことしの音楽会の雰囲気からは、教師も子供も何か和やかで楽しんでいるなという雰囲気を感じました。

2つ目は選曲、私のころはとにかく難しい曲を選んで、それをものにして、どうだとういう雰囲気がありましたけれども、今は無理なく、歌いなれたものを発表する。そんな傾向でありました。

3つ目は担任がタクトを振る。ほぼ全員が担任でありました。こんなところから合同音楽会の性質というか、意味合いが変わってきたなということを感じ、これでいいとそう思いま

した。だから、肩に力が入った変な緊張感、それが感じ取れなかったわけでありまして。それで、10月の末に何校かで音楽会がありました。その音楽会でも地域住民は本当にアットホームな雰囲気を楽しんでおりました。ある小学校の音楽会に参加した中で、終わった後、校長さんがずっと寄って来て、自分が現役時代には感じ取れなかったけれど、今感じたことを話したいとの場面がありました。校長さんいわく、歌を通してとにかく学級づくり、学年づくりをする。歌で学校づくり、人づくりをする。歌を学校の中心に据えるということ先輩たちによくよく言われてきたけれども、今、担任を外れて、しみじみそのことを思う。そういう話をしてくれました。あれだけ荒れていた学級が担任の歌に対する情熱で雰囲気ががらりと変わってきている。歌声づくりの魔力というか、威力というか、そういうのをしみじみと感じ取ったと。どうですか。私も同感でありました。そこで校長さんは自分が今感じたものを自分だけのものにしておくのではなくて、担任とそれから専科の教員とみんなに自分が感じた感動を話し、共感してもらって、歌づくり、学校づくりをしていきたいとそんな話をしておりました。うれしいことの一つでありました。

2つ目です。11月10日に市のコミュニティーの研修会がありました。2つの学校が発表したわけでありましてけれども、ある小学校の発表者は、発表する中で、子供たちの作業に取り組む目つき、迫力、気力、その行動に私たち地域人は目を見張ったとこう言ったわけがあります。子供たちの姿を認め、その感動を語ってくれました。私はこのことから、子供たちの内面に育つもの、よく教育長が非認知能力と言っておりますけれども、子供たちの内面に育つこの非認知能力に地域の方々も目を向けてきている、そうわかるわけでありまして。地域の人たちが子供の育ちを感じ取り、そのすばらしさを味わっているからだと思えます。池上さんとも、よくこれを話します。これこそがコミュニティー・スクールの意味と価値の一つだよねとそんな話をしました。今後もこういう姿が続くことを願うわけでありまして。B小学校の教頭先生は、担任の育ちという面から語ってくれました。ある先生は低学年の子供を川遊び、川へ連れて行って遊んだと。今までは、川で遊んで楽しかったね、よかったね、おもしろかったね、で終わることが多かった。ところがこの先生は子供たちのつぶやきの中から、次の学習材をつかんできた。その舞台というのは、川と地形、川と気候、川と生活というように教科に結びついての学習を子供と一緒に作り出してきた。これは大変な教師の力量アップであります。ある教員は遊ぶ中で、あれ、この子こんな面があるのか。教科の中での姿と全然違うよ。教科の中では寝たふりをしているのに、活動になったら、こんな力があるのかとその子の新たな面に気づいてきた。こういう話をしてくれました。その教員の子供を見る目が子供と遊ぶことによって開かれていった事実を紹介してくれました。私はその発表を聞きながら、そうか、教師と子供、共に育つ教育は、共育ちといわれてきたと、そんなことを感じました。次回にはどんな感動の場面があるか、また楽しみにしております。

3つ目は私のつぶやきです。どこにも言うところがないから、ここで言います。聞いてください。夏休みの延長問題です。クーラーを入れておいて、夏休みを延長してくる。何考えているだ、という思いをちょっと力を込めて言います。11月に入って、夏休みの期間の延長とそのあり方が、急にクローズアップされてきました。新聞記事を通しての感想ではありますがけれども、県のこの施策は唐突感があり、県教委の意図というのは十分つかめませんでした。しかし、この施策は、やがては市町村教委へおってきます。今度は市町村教委が考えていかなくちゃならない。こすいですよ。この事業を進めるには授業時数の確保だとか、

子供の居場所の確保だとか、経済面での公平さ、これらの問題をクリアすることが必要だと思います。私はこれらの中で長野県が提唱する信州サマープログラムに注目し、これと関連させて延長問題を見てみました。というのは、ある全国紙に並行しての記載記事がありました。全国学習塾130社が連携して、新たな施策を打ち出すと、こういう内容です。全国の学習塾が連携して、新たなものを現場に持ってくると、こういうわけです。少子化を迎えた学習塾が生き残りをかけて、英知を結集する。経済面、運営面、指導面、学習内容面までも検討するそうです。そして今行われようとしている英語学習、あるいは、探求学習、学力アップ等と結びつけて、現場におろしてくると、こういう内容です。塾の強みは何だろう。知的学力のアップです。知的学力と言えはすぐ親は高校入試、大学入試となってくる。すると、知の部分塾へ流れていく。では、公教育、我々が担っている公教育、どうやって塾と対抗するのか。ここに来るわけです。そういうときに公教育の強みというのは集団で体験を通して、内面を問う、培う、共助すると私は捉えています。グループでの体験を通して非認知能力を高める。とすると、体験教育に一番最適なのは夏休み、ここにぶつけてくるわけです。夏休みを長くして、子供たちに体験をさせる。というようなことを県教委は塾というのを頭へ入れて、それと対抗する軸として夏休みの延長を考えてきたのかなと思ったわけです。それとも長野県、今まで伝統でやってきた体験活動を夏休みの中へぶちこんで、余った時数を英語だとか、いろいろスキルアップ、それに振り分けようとしているのか。それはわかりませんが、いずれにしても、方法論だけが先走って、現場に投げかけている姿が気になるなと思いました。乱暴な言い方ですけども、思いを聞いていただきました。以上であります。

山田教育長 ありがとうございます。

林委員 音楽会のことで、私も市内の合同音楽会、本当に楽しみにして聞いています。次第にレベルアップしているというような感じを受けています。それで、選曲の中にある小学校で、木琴の好きだった妹がいるんですけど、それが戦争で亡くなってしまって、もう木琴を聞くことができないという歌を歌ったんですけども、これ、非常に表現力が必要な歌で、それをとくとくと歌って、私たちの胸に戦争っていうものはいけなんだなということが伝わってくるんですね。それを指導した先生と担任の先生がこの歌を子供たちに歌わせたかったというようなことを聞いたんですけども、表現力のすばらしさというのに圧倒されましたし、この発声の練習なんかかなり努力した後が感じられました。全体的には本当にどこの学校も本当に一生懸命、発声もちゃんと努力して、この練習もしっかりして演奏会に臨んだということを感じることができました。

その中で、2点だけ気になったのは、ちょうど変声期を向かえた男の子の場合に、無理して声を出すことによって逆に声を壊してしまうのではないかということのその辺のことで、まだ合唱ということの発声できていないために地声で歌を歌ってしまうということ。そうすることによって、合唱全体の雰囲気というか、壊されてしまったりというようなことが感じられるので、その辺の2点の児童の方への丁寧な指導を音楽の先生とかクラスの先生、声というのはすぐできるものではないので、低学年のときから少しずつ少しずつ、先ほど小澤教育長職務代理がおっしゃったように歌声づくりはクラスづくりで、学校づくりだということふうにおっしゃってくださったように、少しずつ少しずつ、毎日の積み重ねの中で鍛えられて、つくられていくものだと思うので、そのようなところも先生方にしっかり丁寧に指導

していただきたいということをお願いしたいです。以上です。

山田教育長 これは、どこかの機会で伝えたいと思います。あとはよろしいでしょうか。それでは、先へ進みます。

○報告第2号 12月の行事予定について

山田教育長 続いて報告第2号、12月の行事予定についてお願いをします。8ページをお開きください。3日月曜日、広丘小学校、諸表簿・施設等点検を行います。委員の皆様方、授業の様子をごらんいただきたいと思います。17日、教育委員の視察研修となっております。それから、19日、こんにちは教育委員会、会場は丘中学校となります。それから21日が定例教育委員会と協議会、続きますので、よろしくお願ひします。あとのほか、1日のえんぱーくクリスマス、また、こどもだけの街こどもしおじり、豊かな心を育む市民の集い、演劇フェスティバル、子育て応援講演会等、大きな行事が12月もありますので、都合がつく範囲で参加いただき、また、12月の定例教育委員会の機会に感想等を聞かせていただければと思います。

12月の行事については、ここにもありますが、よろしいでしょうか。それでは、次へ進みます。

○報告第3号 後援・共催について

山田教育長 続いて後援・共催について、報告第3号になります。資料の9ページ、10ページをお開きください。御質問、御意見ありましたらお出しく下さい。

小澤教育長職務代理者 特にないです。

山田教育長 よろしいでしょうか。それでは、次に進みます。

○報告第4号 平成30年塩尻市議会11月臨時会報告

山田教育長 続いて報告第4号です。平成30年塩尻市議会の11月臨時会の報告です。資料の11ページ、12ページをお開きください。事務局から説明をお願いします。

中野こども教育部長（新体育館プロジェクトリーダー） お願いいたします。11月5日に臨時会開催されましたので、その報告になります。議案は1件でございまして、私どもの（仮称）新体育館建設工事請負契約締結についての1件でございまして、11月5日に提出をさせていただいて、同日の採決になりました。本会議、委員会審査の概要でございましてけれども、全員の一致によりまして、原案のとおり決定をいただきました。特に質問、御意見等はございませんでした。

提案の理由につきましては、工事にかかわる請負契約の締結につきましては、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第2条によりまして、議会の議決を求めたものでございまして、予定価格1億5,000万円以上の工事が対象になります。契約の概要につきましては、契約額は27億2,160万円ということで、新体育館建設工事にかかわります設計、施工一式の金額になります。期間でございましてけれども、11月5日の契約の締結から平成33年、2021年の1月29日が工期となります。相手方につきましては、そこにございますように、前田・岡谷・安井・エイデザイン共同企業体ということで、市内業者、市内営業所が1社ずつ入って、4社の共同企業体でございまして。

次のスケジュールのところをごらんいただきたいと思いますが、一番上段の新体育館実施設計・施工でございます。2018年のTODAYでございますけれども、それが本日でございまして、現在、実施設計に着手をしております。来年度5月、6月くらいをめどに実施設計を完了いたしまして、引き続き、工事着手に入ります。工事は2020年度の当初、1月末を予定しておりましたけれども、提案の中で、設計と施工1カ月ずつ縮めることができるという提案をいただきましたので、その太い線になりますけれども、2020年度の11月に一応工事が完了する予定になっております。中段の附帯工事でございますけれども、あと、東側の駐車場は別途の契約になりますので、東側の駐車場工事を発注をして、2月までに完了するという予定でございます。

それから一番下になりますけれども、管理運営にかかわるものになります。開館準備等になりますけれども、管理運営方法について、ここで12月の特別委員会をお願いをして、方針を協議をさせていただいて、その後、利用料等を引き続き検討させていただいて、来年度の9月以降に条例作成をして、12月に新体育館にかかわる条例を議決をいただきたいというふうに思っております。その中で指定管理制度を導入をして、指定管理者の公募をして、開館準備をして、2021年4月開館予定で進めてまいります。報告は以上になります。**山田教育長** ありがとうございます。質問、御意見ありましたらお出してください。よろしいでしょうか。

それでは報告のとおり、御承知おきください。次に進みます。

4 その他

○その他第1号 平成30年度教育委員会関係補正予算（案）〈期間限定非公開〉

山田教育長 その他第1号、平成30年度教育委員会関係補正予算（案）ですけれども、議会提出前の内部資料を取り扱うため、期間限定の非公開といたしますが、御異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

山田教育長 ありがとうございます。それでは、その他第1号につきましては非公開とします。傍聴者の退席が済みましたので、それでは事務局から説明をお願いいたします。本日も配りした資料です。

太田教育総務課長 それでは、別紙の資料No. 5になります。市議会12月定例会に提案します一般会計補正予算（第9号）になります。No. 1からNo. 4までが教育総務課の関係になります。3款2項2目の保育所施設空調設備整備事業、それから、3番、4番が児童館・児童クラブ施設空調設備整備事業とそれぞれ保育施設と児童館のエアコン設置の工事になります。保育所施設につきましては、管理委託料、工事請負費合わせて、2億3,859万4,000円、児童館・児童クラブにつきましては、管理委託料、工事請負費合わせまして、4,819万円となります。総額で2億8,678万4,000円の予算計上をさせていただき予定でございます。今年度中に工事発注を行いまして、予算は翌年度に繰り越して工事を実施する予定としております。導入するエアコンにつきましては、来年夏の使用開始を予定しておりますので、6月末までに工事を完了したいと考えております。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

小松平出博物館長 それでは続きまして、資料No. 5と6になります。こちらにつきましては

は、平出遺跡公園事業の中で行いますけれども、9月の台風21号の影響で、平出遺跡公園の縄文の村地区の復元住居7棟のうち3棟につきまして大きな被害を受けたということで、復元住居の葺替工事になります。葺替工事自体は工事費820万円、そしてそれに伴います設計監理料ということで70万円、合計890万円という予算額になります。

胡桃市民交流センター・生涯学習部次長（社会教育課長） 資料おめくりいただきまして、7番、8番でございます。こちらは県指定文化財修理事業でございます。7番につきましては、同じく台風21号で被害を受けました県指定文化財小野神社の修理工事の補助金でございます。今年度中に台風被害を受けました本殿について、解体、保存及び調査をするという経費を補正するものでございます。

8番につきましては、同じく台風被害を受けました短歌館の薬医門の修理工事でございます。こちらにつきましても今年度中に解体、修理をする経費でございます。

山田教育長 ありがとうございます。

田下スポーツ推進課長 それでは9番をお願いいたします。スポーツ活動支援事業になります。こちらにつきましては、全国大会出場の青少年に対する激励金の交付となりますが、予算額に対しまして今後の見込額が、大幅に不足するため90万円追加で補正をお願いするものでございます。説明につきましては以上となります。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

石井委員 お願いします。資料のNo. 9、全国大会等出場者の奨励金という御説明がありました。補正額が90万円ということですが、奨励金の支給件数は何件ほど見込んでおりますでしょうか。

田下スポーツ推進課長 10月末現在の資料となりますが、現在まで、全国大会に77名、規模として190万円交付させていただいております。また世界大会に4名、40万円交付させていただいております。残金が9万円になっております。今後、御存じのとおり、きのう新聞報道されました、都市大学塩尻の女子バレーの全国大会出場が決まっておりますし、同じくサッカー部も全国大会出場を決めております。また冬場にスケート等の全中等の大会もございますし、そこら辺の部分を見越しまして、90万円の補正をさせていただくものでございます。以上です。

石井委員 ありがとうございます。

山田教育長 よろしいでしょうか。ほかにはいかがでしょうか。それでは、その他第1号につきましては、説明のとおり御承知おきください。

それでは、本日予定されていた案件は以上となります。その他委員の皆さまから何かありましたらお願いいたします。いいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

山田教育長 その他事務局からありましたらお願いします。

百瀬家庭支援課長 本日チラシをお配りさせていただいております。子育て応援講演会でございます。11月は児童虐待防止推進月間になっておりまして、その一環で開催をする講演会になります。児童虐待を全面に出しますと、なかなか参加にハードルが高くなってしまいますので、子育てストレスを減らしましょうということで、子供と上手にかかわるヒントということで私どもの子育て応援教室等に来ていただいております高山恵子先生による講演会

を開催しますので、ぜひ御参加をいただけたらと思います。よろしく申し上げます。以上です。

山田教育長 ありがとうございました。ほかにはよろしいでしょうか。

5 閉会

山田教育長 それでは以上をもちまして11月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後2時39分に閉会する。

以上

平成30年12月21日

署 名

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員 教 育 総 務 課
教 育 企 画 係 長
